

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401077		
法人名	(有)はる		
事業所名	グループホーム はる		
所在地	熊本県玉名郡玉東町西安寺302-1		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成23年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>豊かな自然の中で、皆さん明るく元気に過ごされています。 畑で季節の野菜などを収穫したり、散歩に出かけ、季節を感じたりしています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>行事を通じた地域との相互交流が確立されてきており、ホームは町唯一のグループホームとして地域密着だから出来る事を発信し続けている。代表者は高齢者福祉のリーダーとして認知証サポーター養成講座での講師や認知症の各グループ活動、併設の“地域ふれあいホーム”での認知症予防のための様々な取り組みを行い啓発に努めている。在宅医療に志のある主治医からは毎回運営推進会議へ出席協力を得ており、ホームと医療・家族・訪問看護との連携により、ターミナルケアに取り組んでいる。高齢化や重度化の中、一人ひとりとの関わりや寄り添いの支援に努め、業務分担や効率の良い時間の使い方など、入居者との時間を多くしたいと会議の中で提案や検討を重ねる職員の思いは「はるははる、ふゆになっても、ここははる」と入居者の作品となって表れている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・リビングに理念を掲載しており、勉強会の時などにも、理念について話している。	開設時に職員全員で作られた五項目の理念を、リビングと事務所に掲示し、名刺の裏にも記載している。入職時のオリエンテーションでの説明や職員勉強会で再認識を行い、日々のケアを通し理念を振り返っている。「地域の中で人生の先輩の入居者と家族の一員としてその人らしい生活を感謝の気持ちで」の実践が、入居者の穏やかな生活を支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会や夏祭り、敬老会に参加させてもらっている。	畑に囲まれたホームには近隣の農家からスイカの差し入れがあったり、代表を通じ、町からの催し物の案内が届いている。地域の敬老会や夏祭り・運動会などに入居者と一緒に参加したり、ポスター掲示や広報・新聞折込などでホーム夏祭りの案内をし、地域から多数の参加があっている。体験学習を行った中学生が、年末の大掃除にボランティアで来てくれるなど心温まる交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターや介護予防勉強会などの活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、入居者の生活状況を報告し、事業所の取り組みも報告し、出席者の意見を聞いている。	定例化された会議は、協力医も議長として出席し、毎回活発な意見交換がされている。避難訓練や外部評価などホームの現況報告を行い参加者からは質問や意見が寄せられている。利用料金等の意見もあり、参加者からの意見をサービス向上に反映させている。	家族の参加が少なく、会議内容などの報告を行う事で会議への関心を持ってもらい出席に繋がるよう検討を頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	FAXや電話などで情報交換をしている。運営推進会議にも参加して頂いている。	町の担当者とは書類提出時に顔を合わせ相談を行ったり、行政からの情報がファックスで送られてくるなど、良好な関係が構築されている。代表者は認知症サポーター養成講座の講師を務める他、併設の地域ふれあいホームで認知症・認知症予防勉強会を毎月開催し啓発に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア会議等で身体拘束のないケアを心掛けるよう話し合っている。	職員会議の中で身体拘束による弊害についての話し合いを深め、言葉を含め拘束のないケアの実践に取り組んでいる。玄関など施錠は行わず、外出傾向の入居者に対しては、気分を変える工夫や見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加している。今後、ホーム内でも研修を実施する予定。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の対象の入居者が来られるときに、制度についても触れて話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し、同意を得ている。改定時にも家族会又は書面にて説明し、了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回、外部評価の結果を会議などで報告し、外部者には玄関に掲示し公開している。	家族会を開催しホームの報告を行い、日帰り温泉での交流が後日実施されている。毎月の利用料の持参でホームへの来訪を増やしたり面会時などに意見の収集に努めているが、運営に関する意見が出る事は少ない。ホームの苦情相談の窓口を重要事項説明書に明記し、公的機関の掲示を行っている。	家族会の開催時などに、家族同士の話し合いの時間を設けるなど家族主体の会議とされ、交流や意見収集の場となる事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、スタッフ会議を開催し、話し合っている。	業務担当者を決め、職員会議で各担当より意見・提案が出され検討が行われている。業務分担や時間節約の提案など、入居者との時間を多く持ちたい職員の思いが会議で話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回、代表者がスタッフと面接を行い、スタッフの意見など話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内の事務所に掲示し、希望者は、参加できるようにしている。ホーム内の研修も計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会にて同業者と交流する場を得ている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に、声かけ傾聴し安心できる生活を出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、又プランのご説明の時に要望などをお尋ねし、ご家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況に応じて、検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと一緒に家事手伝いして頂いたり、昔の話を聞かせて頂いたりしている。家族の一員として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居以前の情報をご家族から聞かせて頂き、そこからケアのヒントを得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に昔からの馴染みの物や本人が使っている物を持ってきてもらっている。地域の行事にも参加し、馴染みの関係が継続できるように努めている。	地域の運動会や敬老会での知人との再会や、馴染みの美容室に出かけたり訪問で来て貰うなど、これまでの関係の継続に努めている。家族の協力で法事への出席やホームで家族と年越しをした入居者など、家族と過ごす時間も大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話に入れない入居者の方には、さりげなく声かけし、話の輪に入れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された方にも定期的にお見舞いに行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から、本人の意向や希望を聞き、ケア会議にて、スタッフで話し合い本人本位のケアを提供できるように努めている。	寄り添いや傾聴、入居者との日頃の会話・表情の中から職員は思いの把握に努めている。又、センター方式で気持ちの変動や要因を知る事で本人本位の支援に繋がるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報と本人・ご家族からお聞きした情報により経過等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフが日頃から観察し、日々の記録にも記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきノートにスタッフがケアについて気づいたことを書き出してもらい、ケア会議にて話し合っている。本人・ご家族の要望を踏まえ、計画を作成している。	職員を担当制とし、入居前の関係者からの情報を収集し、観察期間の後にケア会議を行い介護計画を作成している。本人・家族の要望が盛り込まれた計画は、毎月のカンファレンスで話し合い6ヶ月毎の評価や変化時の見直しを行い現状に即したプランとなっており、本人・家族と十分な話し合いがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に記載し、それを元に見直し・評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のご家族の要望・状況に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人がよく行かれていたところや、ご自宅など、希望があれば外出時にお連れしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医がいる場合は、そのかかりつけ医に受診に行き、連携をはかっている。	入居時にかかりつけ医の説明をしているが、入居前よりホーム協力医をかかりつけ医としていた方も多く、現在全入居者が協力医での定期受診を受けている。家族が主になり受診に対応しているが、ホームでも柔軟に支援し、事前に家族と打ち合わせたり受診内容を確認し共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護師に来ていただいて、その時に情報交換を行っている。特変ある時には、電話など、24時間の連絡体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書を持参する様にし、また、定期的に病院にお見舞いに行き、状態をみている。 退院時には病院での退院前カンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した段階で、ご家族・医師・訪問看護を交えて、カンファレンスを行っている。ホームでの看取りの指針をご説明し、同意を得ている。	入居の時点で、本人や家族に対しホームとして出来る支援について説明する機会をもっている。入居者の身体状況により必要時に家族の意向を確認し、医師、訪問看護師を交えたカンファレンスの中で同意書を交わしている。ターミナルについての勉強会をその都度開催し入居者や職員への心のケアに努め最期までを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い、実践力強化に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を行い、災害時の避難方法の訓練に努めている。	本年度、消防署立ち合いの総合訓練と自主訓練を実施し消防署より消火器具等の点検を受けている。又救急法について看護師による勉強会を行っている。	先づは火を出さない事を全職員が認識し、火元や危険物等について点検表を作成したり、様々な災害に対するマニュアルの整備、地域住民への訓練の周知や協力依頼等への取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会を実施し、入居者の方の尊厳を尊重する関わりをしていくように指導している。	接遇の勉強会や日々のケアを通じて親しい中にも慣れ合いにならない様に心がけ、トイレでの声かけ、失禁時の汚染衣類を目に触れない様バケツで運ぶ等細かい配慮をしている。入居時の説明で個人情報について触れ、重要書類は事務所で一括保管している。職員の入退職時には守秘義務について話をしている。	玄関口に設けられた面会簿について、個人情報の保護の観点からの検討が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の意向に沿えるように配慮している。認知症の進行具合によって、二者択一にしたりして選択しやすいように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活できるように、本人の意思を尊重するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出前には身だしなみや服装のおしゃれを楽しんで頂けるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の体調や気分を見ながら、台所にて食材切りや盛り付け、下膳、食器拭きまで手伝って頂いている。	入居者の希望をとり入れながら、職員の得意料理をおりこみ一か月分の献立を作成している。入居者も食材切りや、盛り付け、後片付け等出来る事を手伝われ買い物にも職員と共に出かけている。一日の赤飯、十五日の麦飯は入居者へも好評である。個人の誕生日はその日に行い家族を招いての食事会や希望に応じ外食を支援している。職員も入居者と同じ食事を摂り、個々に応じミキサー食やきざみ、代替え品等にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に水分量と食事量を記入するようになり、食事介助が必要な方にはスタッフが付き添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きを促している。拒否のある方にも時間を空けて、促している。 自力が困難な方には、スタッフが介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンの把握に努め、トイレ誘導を行っている。拒否の方にも時間を空けて再度声かけしている。	入居時に排泄パターンを把握しその後の支援に活かしている。尿意のない方へは時間をみて小声で声かけしトイレでの排泄を支援している。居室にポータブルトイレを置いている入居者へも日中はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んでいただき、日中の運動を心がけている。イレウスの既往歴がある方には低残渣食にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる。入りたい時間に入って頂けるように配慮している、	午後からの入浴を毎日準備し対応している。入浴を楽しみにされる方がいる反面、拒否の方もおられ再度誘ったり、別の職員が声かけする等工夫しながら間隔が開かない様支援している。ゆず湯やしょうぶ湯等の季節風呂や外出支援で近くの温泉へ出かけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家事やレクリエーションなど疲れすぎないように観察し、適度に休息をとれるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	台所、個人のファイル内に処方の一覧を挟んでおり、スタッフがすぐに確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族等から情報をお聞きするようにし、それをもとにレクリエーションなどを検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺には、散歩や散策に出かけられている。買い物と一緒に出掛けたり、ご家族に協力が得られる所は、時々外出に連れていかれている。	入居者は自然豊かなホーム周辺を散歩したりテラスでの日光浴を楽しんでいる。食材の買い出しへ同行したり個別の買い物へ出かけたり、自宅に必要な物を取りに職員と共に帰宅している。家族の協力により外出や外食の機会を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一名の入居者の方がご自分で財布を持っている。買い物も自分でお金を出して使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があった時は取り次いでいる。希望がある方にはご家族に電話をかけて話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除に心がけ、掲示物には季節に応じた飾りをしている。家事手伝いを促し、生活感を出している。	高い天井はリビングに開放感をもたらし明るく居心地のいい空間を提供している。対面式の台所からは音や臭いがリビングに流れ、入居者はそれぞれにゆっくりと過ごされている。段上がりの和室には仏壇を設置しホームと交流のあるお寺より月一回の法話が行われ心安らぐ場所となっている。玄関や廊下には絵画や短歌の作品が飾られ「はるはる、ふゆになっても、ここははる」とホームをうたった作品に心が和み、職員は入居者がゆっくり座れる様テーブルの配置にも心配りをしている。	季節を過ぎた浴室の飾りを見直したり、リビング前のテラスの補修により安全性の確保を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しており、一人でも過ごせるような環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に昔からの馴染みの物や家具などを持ってきていただくようお願いしている。	衣装ケースやテレビ、家族写真等が持ち込まれ手作りのひな人形が飾られた居室を自分の手で掃除される入居者もおられる。個々の使い勝手に合わせフローリングに畳を敷き自宅での生活を継続されている方など、一人ひとりが自分の部屋として大切に使われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常にスタッフが観察し、出来ることは積極的に声かけし、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容